

# 梅林寺 & 梅林寺外苑マップ

## 有馬家墓所 (マップの 12)

江戸時代に久留米藩 21 万石を治めた大名有馬家の墓所には、歴代藩主の霊廟や石塔、一族や家臣たちの石塔などが伝わる。

### 有馬家霊屋 五棟 (国指定重要文化財)

霊屋とは、死者を埋葬した墓を覆う建物のことである。墓塔を納めていることから、納塔廟ともいう。これとは別に、位牌 (法名を記した木の板。霊の依り代ともされる) を納めた建物を位牌廟という。

「有馬家霊屋 五棟」として平成 30 年 12 月に国の重要文化財に指定された建物は、納塔廟 2 棟と位牌廟 3 棟で構成されている。

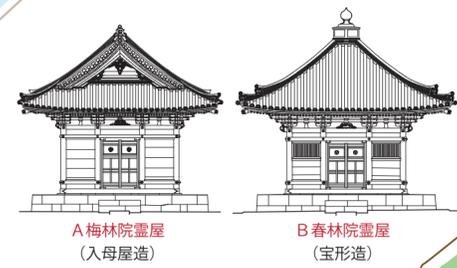
建立時期は、寛永 7 年 (1630) に久留米藩初代藩主有馬豊氏 (春林院) の父で、藩祖とされる則頼 (梅林院) の墓を移した後から、2 代藩主忠頼 (瓊林院) が死去した承応 4 年 (1655) 頃までの間で、久留米市最古の木造建築群であるとともに、日本有数の霊廟建築でもある。

5 棟とも花崗岩の切石基壇上に建つ。屋根の現状は、春林院霊屋 (納塔廟) が宝形造、それ以外は入母屋造である。但し「江南山図」(18 世紀中頃) には、位牌廟 3 棟の屋根は宝形造に描かれており、その後に改修されたものと考えられる。

大名有馬家では、2 代忠頼の瓊林院位牌廟を最後に霊廟建築は造られなくなり、それ以降の藩主の埋葬・供養には 3 重石塔が建立されていくことになる。



\* 江南山図 (梅林寺所蔵) A 梅林院霊屋 B 春林院霊屋



A 梅林院霊屋 (入母屋造) B 春林院霊屋 (宝形造)

### A 梅林院霊屋 (納塔廟)

則頼と則頼室、則頼女の五輪塔を安置する。前方の石燈籠の銘文から、寛永 7 年 (1630) に建立されたことが分かる。伝統的な和様三間仏堂で、17 世紀前期の建築様式の特徴を良く表している。

### B 春林院霊屋 (納塔廟)

前方の石燈籠に寛永 20 年 9 月 30 日の建立と刻まれており、豊氏 (春林院) の埋葬に伴って建てられたものと考えられる。内部には、豊氏と豊氏室 (長壽院)、2 代忠頼 (瓊林院)、5 代頼旨の五輪塔が安置されている。

### C 春林院位牌廟

石燈籠の銘文から、B 春林院霊屋と同じ寛永 20 年建立と考えられる。内部には金箔押し、漆塗りで彩色が施された宮殿が安置されており、豊氏の位牌を納めた厨子を祀る。



### D 長壽院位牌廟

長壽院 (連姫) は初代豊氏の正室で、徳川家康の養女として興入れし、承応元年 (1652) に没した。位牌廟はその頃の建立と考えられる。扉や鬼瓦に三つ葉葵文をあしらう。内部に、宮殿と 9 代頼徳室 (一橋徳川家 3 代徳川齊敷女・智光院) を祀る石塔が安置されている。

### E 瓊林院位牌廟

承応 4 年 (1655) に 2 代忠頼が没した後、建立された。石燈籠の銘にも承応 4 年とある。内部に、宮殿が安置されている。



## 藩主の葬儀と埋葬

どのように葬儀が営まれ、埋葬されたのか。すなわち藩主の御霊眠る霊域はいかにして形作られたのか。今ではほとんど推し量るばかりであるが、幸い 10 代藩主頼永に関しては比較的まとまった記録が残る。

頼永は文政 5 年 (1822)、9 代藩主頼徳の 4 男として久留米城に生まれた。兄たちの相次ぐ夭逝で世子となり、父の没後、弘化元年 (1844) に藩主となる。幼時より聡明で仁慈篤く、藩主就任後は財政再建や兵制改革に取り組み、同 3 年 7 月 3 日、申の上刻 (午後 3 時頃)、治世わずか 2 年にして久留米城で病没した。

その後の流れを記録で追ってみると、7 月 5 日に沐浴のち入棺、久留米城の「御居間」に安置され、梅林寺 13 世羅山玄磨により初 7 日から 49 日までの法要を終え、9 月 22 日に葬儀が執り行われた。

葬儀当日、午の上刻 (午前 11 時頃) 本丸表門より出棺、家老以下の行列とともに大手門、京隈町口門を経て、未の上刻 (午後 1 時頃) 梅林寺到着、申の中刻 (午後 4 時頃) 廟所に入った。戒名を「義源院殿前拾遺補開筑州太守仁峯道崇大居士」とする。

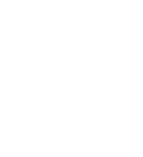
廟所は約 2.73m 四方、深さ約 3.03m、葬儀当時は杉板の仮屋根を設けた。木棺は石槨に納められ、その上に蓋石が置かれ、さらに石材が組まれて、地上部に「霊塔」が据えられた。霊塔の下には、1,243 文字に及ぶ墓誌を刻んだ石板が、文字面を下に向け埋められている。

\*「頼永公於御国許御逝去一件 下」「義源院様御吊式一件」「義源院様御葬送一件」「義源院様御葬送一件 下」(久留米市立中央図書館所蔵「有馬家文書」)



## 梅林寺

- 山門**  
梅林寺の表門。江戸時代後期の作とされる。「紫海禅林」の額を掲げる。
- 鐘楼**  
梵鐘が日々時を告げて鳴り響く。天保 10 年 (1843) 竣工。
- 禅堂**  
「金剛窟」の額を掲げる。禅修行の重要な場として、外部と隔てられて建つ。文化元年 (1804) 建立。
- 庫裏**  
「庫裏」とは寺の食事を調える所。寺務所や茶の間などを兼ねる。明治 35 年 (1902) 頃建立。
- 唐門**  
明治 20 年 (1887) 建立。檜皮葺の平唐門。彫刻に満ちた扉は、目を見張るものがある。
- 本堂**  
大正 7 年建立。正面前方に白い築地塀に囲まれた禅の庭園を配する。
- 開山堂**  
開山禹門玄級の彫像を安置する。弘化 3 年 (1846) 建立。
- 位牌堂**  
江戸時代後期の建立。第 15 世猷禅玄達らの彫像などが祀られる。
- 茶室**  
江戸時代末頃の作。
- 書院**  
明治 35 年設計。
- 経蔵**  
建立は安政 5 年 (1858)。のちに現在の場所に移築、一部改修された。
- 有馬家墓所**  
久留米藩主有馬家の墓所。(詳しくは上部の解説へ)
- 弘法堂**  
弘法大師 (空海) を祀る。
- 観音堂**  
観世音菩薩を祀る。堂前の石柱に「三井西園霊所第四三番」とある。
- 梅林寺のソテツ**  
久留米城外郭 (四の丸) の渡邊家から明治 13 年に移植された。久留米市指定天然記念物。
- 玉垣**  
久留米緋業の発展に尽力した国武喜次郎が寄進した。



## 17 石橋

久留緋業で国武喜次郎と双壁をなした本村庄平が大正 6 年 (1917) に寄進。

## 18 石灯籠群

有馬家墓所から移されたものと考えられる。他にも境内・外苑に同様の石灯籠が残る (マップの★マーク)。

## 19 寄せ墓

久留米藩士の墓や久留米緋創始者小川トクの生前墓がある。

## 20 世代墓

梅林寺歴代住職の墓。



## 梅林寺外苑

### 21 夏目漱石句碑

明治 29 年 9 月、第五高等学校 (旧制) 教授だった夏目漱石は妻鏡子とともに梅林寺に立ち寄った。それを詠んだ「碧巖を提唱す山内の夜ぞ長き」の句碑。

### 22 菅虎雄先生顕彰碑

久留米城下呉服町 (城南町) 出身。ドイツ文学者。夏目漱石の親友。漱石に五高の職を紹介した。

### 23 ティーハウス梅苑

久留米市瀬下町出身の建築家・菊竹清訓による設計。

### 24 大乘妙典一石一字塔

文政 4 年 (1821)、梅林寺第 9 世憲幢激烈が建立した。

### 25 十志士碑

幕末の久留米藩政を主導した藩士で、尊王攘夷派によって切腹に追い込まれた 10 名を偲んで、明治 17 年に建立された。

